

第2回野菜栽培 大学開催される

(文責) 原田 浩明



キュウリ用アーチに誘引ネットを設置

四国地方が梅雨入りして間もない6月10日、第2回野菜栽培大学(勉強会)が、実習用農場(吉岡キウリ畑)及び西願寺内の小部屋にて行われました。今回は、途中参加を含め、前回より4名多い11名による勉強会となりました。主なテーマは次の通り。

①第1回露地野菜大学での勉強内容を踏まえたほっこりカボチャ栽培の総括

②8、9月収穫に向けた夏秋キウリの土作りからツル整枝管理及び生産目標について

①のカボチャ栽培の総括については、参加者各自が、これまでの総収穫数・品質・作業実績について自己評価した結果を発表し、その内容について、参加者全員で、客観的に評価・議論を行いました。

②の夏秋キウリについては、8、9月の本格出荷に向けた具体的な作業工程について、実習用農場での実習やホワイトボードを使っての図解説等を通して、理解を深めました。



端のお地藏さん

(文責) 中藤 真里



お地藏さんが祀られているお堂

このお地藏さんは、三兄弟の長男で、次男が双海・牛の峰地藏・三男が松山市・日切地藏と云われている。端では今でも4月24日、8月24日にお地藏さんに集まり、太鼓の音に合わせて皆で「ナンマイダー」ナンマイダーと数珠を回しながら祈願している。昔は子供も多量に賑やかに行っており、宿になった家の人が赤飯やお菓子を用意し、来た人に接待をしていたとのこと。現在は少ない人数で細々と行っているが、昔からの行事を大切に今も続けている皆さんの姿を見て、私も大事にしたいと思いません。



お堂の前で数珠を回す端の皆さん

特に、今年度は「みあきブランド」としての販売や大口販売等も視野に、安定した生産量と品質の確保を目標にしており、吉岡講師の解説もより熱が入っていました。

今回2回目の開催というところもあり、前回の2テーマに留まらぬ活発な議論が行われ、「みあきブランド」確立へ一歩前進した濃厚な勉強会でした。



西願寺小部屋で講義を受ける皆さん

みあき野菜を食卓に 『産直市まさき村』

(文責) 原田 夏子



笑顔が素敵な三好村長

野菜生産者にとって販路確保は、大変重要であり、今後の生産活動を大きく左右する要素の一つです。その販売において、日頃より、お世話になっている「産直市 まさき村」村長(社長)の三好さんより、三秋地区の皆さんへメッセージを頂きましたので、ご紹介致します。

三秋地区の農産品出荷者の皆様には、平素は、格別のご支援とご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。弊社が目指す「地域農産物と大型S.Cの共存共栄」を実現する為の拠点「まさき村」は、皆様のお陰を持ちまして、8周年を迎えるに至りました事を、ご報告いたしますと共に、多大なるご支援・ご協力の賜物と重ねて御礼申し上げます。

現在、我が国経済は回復傾向が見られるものも様々な局面があり全体として先行き不透明な状況で推移いたしております。小売業を取り巻く環境につきましても、個人の生活感覚に景気上昇の実感、薄く、個人消費は依然として横ばいで推移いたしております。当社は「新たな販売チャネルと新たな商品を創出し地域経済の振興発展に寄与する」事を達成する為、松前町特産の「はだか麦」を使った商品の開発や、地域の農産物と生産者及び行政との連携を深め販路開拓に注力し、地域経済と地域社会に貢献出来る企業となるべく努めて参ります。農水産品を中心とした小売部門におきましては、店頭販売商品に加え、外部販売の粗利益率向上を念頭に整理と拡大に努め、冬期に農産物が品薄となる久万高原町への出荷や松前町の給食センターへの供給など安定的な販売ルート確保し、一定の成果を見ております。「食の安全・安心」に消費者の高い関心が寄せられていることは、周知の事実であります。生産者の顔が見える安心・安全な品づくりを目指す

坂井さんちのバラ園

(文責) 稲多 早由



ログハウスの前に咲く色とりどりのバラ

6月、坂井タツコさん宅のお庭のバラが満開となりました。梅雨の晴れ間、バラ鑑賞に伺いました。お庭には紫、黄色、ピンク、オレンジ、赤、白色のバラが色とりどりに咲き、花を近づけるといい香りがありました。「バラは24本あって、毎年少しずつ増やしているの。これから1ヶ月は綺麗に咲き続けるのよ。いつでも見に来てね。」と坂井さんは嬉しそうに話してくれました。皆さんも近くにお越しの際は、坂井さん宅で咲き誇るバラに心を癒して貰っては如何でしょうか。坂井さん、ピザ釜の取材に続き2回目の訪問取材有難う御座いました。



濃いピンクが鮮やかなバラ

ルールを正しく 守って安全運転

(文責) 原田 夏子



自転車の交通マナー学ぶ河野翔大くん

去る5月29日、自転車安全教室が北山崎小学校で、伊予警察署、中村交通安全協会の指導の下実施されました。今回は小学3年生と4年生が、実際に自転車に乗り、運動場に横断歩道や信号機などを置いて、おまわりさんに教わりながら、実際の交通ルールに従って渡っていました。おまわりさんは、子供たちにも真剣に取り組むよう何度か注意して、しっかり学ぶよう呼びかけていました。子供たちも身が引き締まったことでしょう。実際に道路で、自転車に乗った時にきつと今回学んだことが役に立つと思えます。

はっけよいのこった

(文責) 原田 夏子

4月29日昭和の口、五色浜公園で、伊予市少年相撲大会が開催されました。我が三秋地区からは小学6年生男子の部から3名が出場し、力強い相撲を見せてくれました。試合前に意気込みを聞くと、みんな「1勝はしたい。」と口をそろえて話してくれました。1勝できた子も

当社の取り組みは、時流のニーズに合致しており、インターネットを介した、県外客の需要や店頭における、リピート客の動向にも僅かながら成果を見ています。三秋地区の若者達にも賛同して頂き、多くの農産品を出荷して頂いております。エミフルM.A.S.A.K.I.にもお越しの際は「まさき村」にもお立ち寄りくださいますようお願い致します。三秋地区の皆様のご来店を社員一同、お待ち申し上げます。



まさき村の全景(正面より)

みあき産をPR

(文責) みあき野菜倶楽部



キュウリ詰め放題特設スペース

台風5号による雨風が降りしきる、8月7日早朝、専用キヤリーに山盛りしたキュウリを載せて2台の車がルート

56号を直走する。到着したその先は、「産直市 まさき村」。店内の特設スペースで、山盛りキュウリと詰め袋、試食用の冷やしキュウリを用意し、客入りを今か今かと待つ野菜倶楽部メンバーの面々。8時30分開店。月曜特価品の玉子を目当てに多くの客が店内に…。のはずが、この日は違った。台風5号による雨風の影響はまだ治まりを見せず、入ってくる客はパラパラ。それでも何とか、昼前辺りからは、雨風も治まってきたことと、特設スペースに立ち寄る客も増え、それなりに盛り上がりを見せた。試食用にしたある子供は、キュウリをかじるなり驚いたような表情を見せ、一言、「芯まで美味しい!」この一言に、雨風の中、早朝から準備してきた苦労が報われたと思う一同だった。

ジャックと豆知識③

(文責) 藤岡 健司



ちゅと知りた

三秋地区

「三秋の大池大蛇」

昔 三秋の端に中藤徳三(なかつとくぞう)とくぞうという人が住んでいました。五月のある曇った日、稲荷神社へおこもりに行くため三秋の大池の土手にさしかかりました。すると急に大池の中から大木の幹のように大きなへびが姿を現して中島山のほうへ入っていきました。中藤さんは驚きましたが、恐ろしさを落着かせて「ああ、恐ろしく大きなへびを見た。おまえも

よう。この経験をこれからの人生に活かして欲しいものです。これから、5・6年生になる子達もこれから取り組んでみては如何でしょうか?



WAになって踊ろ

(文責) 原田 浩明

まだまだ層間の蒸し暑さが残る8月5日夕刻、北山崎小学校グラウンドにて、第2回北山崎夏祭りが開催されました。グラウンド内に組まれた櫓を中心に、各地区の踊り手たちが



曲に合わせて#ハア~ヨイヨイ♪

この夏祭りに我が三秋地区の踊り手として参加した高井一希くん(小学2年生)より、感想文を頂きましたので、ご紹介いたします。

夏まつり

ぼくは夏まつりに行きました。トバンドのめんろうがありました。ヤササは、からあげ、なごみ甘もい、ばいありました。ぼんおよりもあり、ぼくはダンシングヒーローがたのしかったです。

と甲で雨か、り中だんしたので、ぼくはかえってしま、たけど雨がやんだあはまたあ、たそがでま、ボールつりや金ぎ、すくいながたのしいあみさがい、ばいあるのが、来てもかぞくで行きたいです。